

02 PLANNING



teNEO Architect : 矢板建築設計研究所



1F PLAN 1:175

- 洗濯
- アイロン・他家事
- 収納
- 物干し

上/矢板建築設計研究所が設計を手掛けたモデルルーム「teNEO」では、1階にリビング&ダイニングキッチン、主寝室のほか、キッチンと洗面室の間にユーティリティーを配し、家事機能を集約。さらに主寝室まで回遊できる裏動線をとることで、玄関まわりやリビング&ダイニングなどの裏動線を美しく保ち、機能的な設計となっている。左/一階のユーティリティーからキッチンを見る。袖壁の奥がキッチンで、引き戸により2室は間仕切り可能。デスク背面には、冷蔵庫と壁面収納を備え、ユーティリティーはパントリーも兼ねる。室内の床や壁、家具天板には天竜スギの無垢材を使用し、南東に面する開口(W1720mm×H900mm)とトップライト(800mm角)を設けることで、明るい光が差し込むさわやかで心地良い雰囲気をつくっている。デスク上部には、物干しと照明ボックスを兼ねた造作を施し、手元を明るく照らすことで、アイロンなどの作業もスムーズに。洗濯機は、マルチシンクと共に洗面の隣に扉をつけた置き場を確保。ユーティリティー横の勝手口は外の物干し場へとつながる。以上「teNEO」設計/矢板建築設計研究所(no.16)

ユーティリティーのプランニング

ユーティリティーを一つの空間としてプランするか否か、また住まいのどこに配置するかは、脱衣→洗濯→干す→畳む→しまうといった、洗濯の一連の流れと密接にかかわるうえ、洗濯機の種類によってもプランは左右される。正面に扉がついたビルトイン型のドラム式であれば、キッチンや洗面カウンターの下に収めて、家具の一部のように見せることができる。一方でかまらずに出し入れできる「ななめドラム」や、渦巻き式や攪拌式に見られる縦型の場合は、扉の開閉やボタン操作のため洗濯機上部にもスペースが必要となり、置く場所を選ぶ。洗濯機をオープンな空間に設置する場合は、壁の位置や高さを調整して目隠しをする、扉を設けるなど、雑然とした生活感を見せない配慮が必要。前述の本誌調査によると洗濯機の種類は縦型が約8割に上り、ユーティリティーを設けない場合は、脱衣室を兼ねた洗面スペース横に扉を設けて収納するスタイルも多く見られた。洗濯機が1階に、物干し場が2階にある場合、水分で重くなった洗濯物を持って階段で移動するのは重労働となるため、効率的な動線を考えた上でプランニングしたい。

矢板建築設計研究所が設計したモデルルーム「teNEO」は、キッチンとバスルームをつなぐ動線上に、トップライトのある明るいユーティリティーをプラン。脱衣室に近く、洗濯物を外に干すまでの動線がコンパクトで、室内のトップライトの下に干すこともできる。さらに洗濯物を畳んだり、アイロン掛けをするカウンターも設置し、背面には床から天井まである壁面造作収納を設けて掃除用具やタオル類の十分な収納力を備えた。寝室まで回遊動線で結び、煩雑な家事をスムーズかつ快適に行えるよう、リビング&ダイニングからは見えない裏動線を確保。キッチンに近い場所にすべての家事作業を集約する効率的なプランの好例だ。次頁からは、配置する場所ごとに、さらに詳しくユーティリティーのプランニングについて考える。

I'm home.

high end design and lifestyle

隔月刊 アイムホーム 1・3・5・7・9・11月の各16日発売

**BRUSH UP
BATHROOM**

tips of
UTILITY SPACE

2012

MAY, no.57

www.imhome-style.com

*Forest
Villas*

**DAZZLE
in GLORY**

建築 × I'm home. がつくる住まい